

みんな



地産地消がある暮らし

私たちが毎日口にする農作物の安全・安心、さらに流通時の環境負荷軽減などたくさんのメリットがある「地産地消」。地産地消は地域づくりとどのような形で関わっていくのか考えてみます。

地元で作り、 地元で食す



地域に欠かせぬふれあいの場

ラジオ体操で始まる四街道の朝市は、毎週日曜朝7時半から市役所駐車場で開催されます。20軒ほどの店先には、野菜や果物、花き類、焼き菓子などが並び、種類の豊富さとあふれる季節感に目を見張ります。しかも新鮮で安価。出店者は専業農家だけでなく、定年後に趣味で野菜づくりを始めた人などさまざまです。

店先では出店者も来場者も関係なく、食材を使ったレシピから近所の話題までたくさんの情報が飛び交い、ざっくばらんな雰囲気が朝市最大の魅力です。

「朝のウォーキングの終点がこの駐車場。日曜はここで新鮮な野菜を買うことで、一週間のスタートを実感します」と来場した女性。20年間雨天でも決行が基本という朝市は、市民にとって日常の一部であり、地域に密着した販売の場です。

地元とつながる農園を営む

大日今宿でハウスを中心に、トマ

トや春菊、パプリカ、いんげんなどを栽培している小川泰弘さんと順子さん。将来を悩んだ旅先で、地元の人に差し入れされたトマトのおいしさにお嬢さんの「こんなトマトを作ってほしい」というひとことが農業を志すきっかけになりました。

鹿放ヶ丘と大日は、戦後開拓された農家103軒が強く団結している地域です。小川さんはこの地を選びその輪に飛び込んで、持ち前の明るさで先輩方に道具、販売先など多くの面で指導を仰ぎました。

野菜の出荷先は、朝市と小川さんのハウスを直接訪ねてくる皆さん。自家用車を使って小売店にも運び込みます。

大切にしているのは、対話だそうです。「作物は、自分が自然や自身と向き合いながら愛情をこめて作った大切な作品。お客さんから直接お

いしかった、と言われ、また小川さんの野菜ならと規格外のものでも買い求めてくださると本当にうれしいです」。小売店でも野菜の特徴やオリジナルレシピを記したシールを貼り、おがわ農園の野菜の新鮮さとおいしさをPRしています。

自身の生活と近い場所で暮らす人たちの声を聞きながら野菜づくりをすることに、小川さんは大きな喜びと誇りを感じています。



(写真上) 朝市は参加者全員のラジオ体操から (写真左下) 小川さん夫妻。ハウス内で (写真右下) パプリカにメッセージを添えて

地産地消を 未来につなぐ

連絡先

よつグルメ研究会

四街道市 朝市

電話：043-421-6133（産業振興課）



食を通して四街道を元気にする会

電話：090-8087-1436（島田）



新鮮な食材はシンプルな調理法で十分おいしい

地元産の農産物は、学校給食や市民活動団体においても積極的に利用されています。

市内の全小中学校では、給食の献立表に使用する食材の主な産地が明記され、子どもたちは食べることで地域のことを知ることができます。

作っっちゃおう！

四街道のご当地グルメ

四街道のおいしいものを食べてもらいたい、と平成24年に立ち上がったのが「よつグルメ研究会」。福祉団体の協力で製粉した地元産の小麦粉を使った「鹿放のパン」やガレット、スープカレーなどは、市内のイベントではすっかりおなじみです。ニューの試食会や東京情報大学と連携したパッケージづくりなど、地域とともに地産地消を進めてきました。平成30年からは日替わりシェフの店「さくらそう」で「よつカフェ」を開店。開店当日に収穫されたみずみずしい野菜をはじめ、地元の食材で調理したランチは、ヘルシーでボリュームいっぱいと好評です。

畑と食卓が近いまちに

四街道では、温暖な気候や土壌に恵まれ、米や野菜、果物などの農作物が豊富に採れるため、地産地消の活動は、多くの場で進められてきました。

3年前「食を通して四街道を元気にする会」は地産地消を目指す生産者やレストランを紹介した「ぐるめまっぷ」を作成。生産者と消費者を結びつけ、さらに購買機会を増やすための提案をしました。

消費者と産地の物理的距離の短さは、心理的な距離の短さになり、朝市のような顔が見える関係は、消費者の「地場のもの」への愛着心を増し、自分のまちを好きになることにつながります。ご紹介したような市民活動の広がりや、さらに地産地消がふだんの生活に浸透していく貴重なきっかけになっています。

都心に近く便利に暮らしながら、地元で採れた新鮮で安心な食材を使った食事が楽しめる四街道。これからも生産者と消費者、そして市民みんなで「畑と食卓が近いまち」を目指していきましょう。



シェフの一人、渡辺ひろみさんは、週2回自宅を改装したカフェも営んでいます。「小さいころから料理が好きで、定年後は自分の畑で採れた野菜で家庭料理を提供したいという夢が叶いました。お客様に地産地消のすばらしさを楽しんでいただくために、栽培する野菜の種類からレシピ、器選びまで工夫を重ねています」と楽しそうに話してくれました。



(写真左) 珍しいかぼちゃは大きく切ってグリルに

(写真右上) 秋の恵みいっぱいのランチ

(写真右下) 採れたての美味しい野菜たち

ピックアップ

みんなで災害支援ネットワーク学習会 「支援を活かす地域力 ワークショップ」



(一社) ピースボート災害支援センター
<https://pbv.or.jp/>

みんなで地域づくりセンターが事務局を務める「四街道みんなで災害支援ネットワーク」は、平時から顔の見える関係づくりを大切に、災害発生時にはそれぞれができることを持ち寄って支え合う関係を作ろうという活動をしています。

その一環として10月19日に学習会「支援を活かす地域力ワークショップ」を行い、39名が参加しました。講師は国内外で災害支援活動を行う「一般社団法人ピースボート災害支援センター」の関根正孝さん。数多くの被災地で支援をしてきた経験をもとに、災害時に起こり得る課題についてお話しいただきました。

お話を受け、ワークショップでは「発災時情報を得る手段と発生し得る課題はなにか」「災害時どのような課題が起こ

る可能性があるか」「どうしたら困難を解決することができるのか」を話し合いました。また「人とのつながり深めるためにできることは何か」について各自考える機会を得ることができました。

参加者からは「被災したと想定して備えることが大切」「新しい発見や学びがあった」などの声が寄せられ、満足度の高い講座になりました。

みんなで災害支援ネットワークではメンバーを募集しています。災害支援に関心のある方であればどなたでも参加できます。また災害に関して学びたいことがあればお知らせください。講座を行うなどのお手伝いもさせていただきます。ご相談をお待ちしています。

ピックアップ

みんなで子育て見学会 地域の居場所 「おひさま文庫」(東金市)



おひさま文庫
facebook.com/ohisamabunko113/

10月31日「みんなで子育て見学会」を開催しました。コロナ禍により3年ぶりに行われた貸切バスで出かける見学会、市内外から22名が集まりました。

「おひさま文庫」は、のどかな田園風景にたたずむ地域の居場所。「子ども×アート×農業」をテーマに、蔵書約1000冊があり、そこに併設して「おひさま放課後クラブ」や、親子が宿泊できる一時避難所、誰でも立ち寄れるギャラリーカフェを有する複合施設です。

この文庫を運営する「NPO法人3.11こども文庫」は、理事長で版画家の蟹江杏さんが、東日本大震災で被災した福島の子供達に絵本と画材を送る取り組みから始まりました。名称に「文庫」がつ

く由来は、この活動が原点にあります。

見学会では、地域の課題に取り組んできた事務局長でおひさま文庫代表の鈴木孝雄さんの想いに真剣に耳を傾ける一方、のどかな環境に自然と笑顔になる参加者の皆さんの様子が印象的でした。福祉や不登校など子ども支援に関心のある市民が集い、「こんな活動をしている・してみたい」というアイデアの種を交換できたのも、見学会の大きな収穫です。

おひさま文庫が地域のささやかな取り組みから始まったように、当センターとしても、見学会で出された声や形になるよう、関係部署とも連携しサポートしていきたいと思っています。

お知らせ

団体情報の掲載について

当センターでは、地域づくりの情報を集め、地域づくりに関わる皆さんが活用できるよう、さまざまな形で発信しています。その一つとして、市内を中心に活動する団体をホームページで紹介しています。現在、「健康福祉医療」「文化芸術スポーツ」「環境保全」「子どもの健全育成」など19の分野で81団体の活動目的や内容・概要、活動実績などを掲載中です。四街道でどのような活動が行われているのか知りたい、これから活動を始めたいという方は情報収集にお役立てください。

また、情報は随時更新しています。これから掲載をご希望の団体はご連絡ください。

みんなで34号

表紙の写真：
笑顔いっぱい「朝市」のメンバー

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政策推進課分室）

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

開館日時：火～金および第1・3土 9:00～17:00

(休館日は日・月・祝日と第1・3以外の土および年末年始)

電話：043(304)7065 メール：info@minnade.org

発行日：令和4年12月1日 発行部数：4,500部

ホームページ

Facebook

